

令和8年度

藍住中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

・どのように社会・世界と関わっていくのかを考え、よりよい人生を送るために、理解していること・できることを増やし、これらを活用して課題を解決していく力の育成。
・聞くことを大切にし、学習規律を徹底する。

校長

細川 誠治

学力向上推進員

戸出 剛

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉えて取組状況を把握する。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎的基本的な知識・技能の習得のため、課題に真面目に取り組む生徒が多い。 ●入学時から学力に二極化が見られ、全体として読解力に課題がある。	・授業で学習した内容を概ね理解することができる。 ・基礎的基本的な知識・技能を確実に身につけ、定着させることができる。	・めあて、まとめカードを活用し、本時の授業での学習を視覚的にわかりやすく提示する。 ・単元の終了後に小テストを行うなど、スモールステップで復習させ、知識・技能を確実に習得させる。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○学んだ知識・技能を活用して課題を解決しようとする意欲がある生徒が多い。 ●目的や意図に応じて判断したり、表現したりすることが苦手な生徒が多い。	・文章、図、表の内容を理解して、知識・技能を活用して、正しく判断することができる。 ・授業で学んだことをもとに、自分の意見を目的や意図に応じて表現することができる。	・「徳島版読解力」を基に、各教科の重点を意識した授業を展開する。 ・目的な意図に応じて考えたり、意見を言えたりする話し合い活動を多く取り入れる。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○ほとんどの生徒が落ち着いて真面目な態度で授業に取り組むことができる。 ●家でゲームやスマホをする時間が長く、家庭学習が定着していない生徒が少なくない。	・「わかる・できる」を増やすことにより、自己肯定感や自己有用感を高めようとする。 ・毎日の自主勉強ノートや宿題を学力向上を目指して取り組もうとする。	・生徒の学習活動に対して全教員がポジティブな行動支援(SWPBS)を継続し、学習意欲を高めていく。 ・自主勉強ノートや課題の提出物を確認して、学習がより充実したものになるよう個別の助言を具体的にを行う。			